

# 千葉県国土利用計画地方審議会第7回国土利用計画調査検討部会 議事録

開催日時：平成30年9月14日（金）

14時00分から15時20分

開催場所：千葉県教育会館 本館304会議室

<p>司 会</p>	<p>皆さまお揃いですので、ただいまから千葉県国土利用計画地方審議会第7回国土利用計画調査検討部会を開会いたします。</p> <p>私は、本日の司会進行を務めます、政策企画課地域政策班の高森と申します。</p> <p>よろしくお願い申し上げます。</p> <p>それでは、開会にあたりまして政策企画課副課長の榊田より御挨拶申し上げます。</p>
<p>榊田副課長</p>	<p>皆さまには昨年度来、国土利用計画の策定に御協力いただきましてありがとうございました。</p> <p>第5次「千葉県国土利用計画」につきましては、皆さま方の御協力により、この7月末に策定・公表することができました。</p> <p>特に部会員の皆さまには、計画案の作成に向けて、延べ6回にわたり御専門の立場から、詳細な検討を加えてくださり、誠にありがとうございました。</p> <p>おかげさまで、社会情勢の変化や千葉県の特性を的確に踏まえた、非常にバランスの良い計画を策定することができたと考えております。</p> <p>心から感謝申し上げます。</p> <p>さて、本年度は、第5次計画を遂行していくにあたって重要となります、モニタリング制度の整備を年度末までに行いたいと考えております。</p> <p>本県では、前の第4次計画からこのモニタリング制度を導入しました。</p> <p>ちなみに、モニタリング制度を導入している都道府県を国土交通省に確認したところ、本県のみということで、全国に先駆けた取組となっております。</p> <p>第5次計画では、県土利用の質的な状況を的確に把握できるように、計画の体系に沿って構成を整理し、また指標数を精査しました。</p> <p>部会員の皆さまには、適切な県土利用を推進していくため、専門的な見地から御審議くださいますようお願い申し上げます。</p>
<p>司 会</p>	<p>それでは、議事に先立ちまして配付資料の確認をさせていただきます。</p> <p>会議次第 出席者名簿 座席表</p>

	<p>資料1 国土利用計画におけるモニタリングについて</p> <p>資料2 第5次千葉県国土利用計画・土地利用基本計画の記載整理</p> <p>資料3 モニタリング指標（素案）総括表</p> <p>資料4 第5次千葉県国土利用計画・土地利用基本計画のモニタリング指標及び計画評価制度設定に係る今後のスケジュール</p> <p>参考1 第5次千葉県国土利用計画・土地利用基本計画（平成30年7月）</p> <p>参考2 県土利用のモニタリングに関する調査報告書（平成29年3月）</p> <p>参考3 千葉県国土利用計画地方審議会国土利用計画調査検討部会設置要綱</p> <p>以上でございます。配付漏れはございませんでしょうか。</p> <p>続きまして、本日の出席委員数を報告いたします。</p> <p>本日の調査検討部会には、ただいま、3名の委員の出席をいただいております。</p> <p>これは、委員定数5名の過半数を満たしておりますので、千葉県行政組織条例の規定により、本部会が成立しておりますことを、御報告申し上げます。</p> <p>なお、本部会は、お手元に配付してございます要綱に基づき、公開することとされております。また、部会の議事概要につきましても後日公開する予定ですので、御了承願います。</p> <p>それでは、早速ではございますが、次第にしがいまして、議事に移らせていただきます。</p> <p>ここからの会議の進行につきましては、本来であれば、池邊部会長にお願いするところですが、部会長は本日所用により欠席されています。</p> <p>そのため、条例の規定によりまして、部会長の指名する当該部会に属する委員が部会長の職務を代理することとされておりますので、平成29年3月開催の第1回部会にて、指名がありました志賀委員にお願いしたいと思います。志賀部会長代理よろしくお願いたします。</p>
部会長代理	<p>それでは、議事の審議に入ります。</p> <p>はじめに、本部会への「報道関係者」及び「傍聴者」の参加について確認します。本日の部会に、「報道関係者」及び「傍聴者」は参加していますか。</p>
事務局	<p>いずれも本日はいらっしゃっておりません。</p>
部会長代理	<p>それでは議事に入らせていただきます。</p> <p>本日の議事である、「第5次千葉県国土利用計画・土地利用基本計画におけるモニタリング制度及び指標の素案について」、事務局から説明をお願いします。</p>

事務局	(説明)
部会長代理	<p>今日議論をすることをはっきりさせておきたいのですが、資料4で説明がありましたように、1回目の検討部会で意見を伺ったうえで、10月24日開催の2回目の検討部会で案を取りまとめ、それを11月下旬の第1回審議会に諮るという段取りということで、本日は資料3を中心にいろいろ御意見をいただいた上で、次回取りまとめに入ることになるかと思えます。</p> <p>まず、資料1に関して、御意見いかがでしょうか。</p>
大江委員	<p>指標数を減らして見直したことはすごく良いと思います。昨年の会議でも意見として申しましたが、効率的に行うというのは大事だと思いますので、その点で賛成です。全体的には評価手法を細かくするというのも良いと思います。特に異論はありません。</p>
中村委員	<p>前回の指標の何が削減されて、今回何が採用されたのかわからないので、前回の指標と今回の指標が対比できる形で示していただけたら見やすかったかと思えます。</p>
部会長代理	<p>次回までに事務局において前回指標と今回指標を対比できる資料を作成していただけたらと思えます。</p> <p>次に、資料2及び資料3に関して、個々の話に入る前に全体の枠組みについて、御意見いかがでしょうか。</p>
大江委員	<p>基本方針に対応させる形で指標を整理し直したのは、すごくわかりやすく、改善されたと思えます。</p>
部会長代理	<p>1点気が付いたのですが、個々の基本方針なり措置に応じて振り分けているということだと思いますが、それによって基本方針の表現とそれの一部の措置みたいになっていて、重複というか最近取組の統合性があるいろいろな形で求められているので、基本方針を実現していくための措置として重要なところは若干重複があってもよいか議論してもいいかと思いました。</p> <p>具体的には、資料3の2. 3の取組の「多様で個性的な景観の保全・形成」というところで、主に都市計画サイドの景観計画なのでそういうことになるかもしれませんが、例えば農地や森林も「歴史、文化、自然等の地域特性に根差した良好な景観の保全・形成」しているとすれば、そういう指標も入っていいかもしれない。そういうところがいくつかあるようで、2. 1の取組で「自然環境及び生物多様性の保全・再生」とあるが、生物多様性自体に関しては指標の中に入ってきづらいというのが見ていくと少しある気がする。対策とか取組とかは固まっているので変えるわけにはいかないが、指標と大項目の間で開きがあるところは若</p>

	干調整の余地があってもいいのかと感じました。
大江委員	施策の効果を評価できるような適正な指標を見つけるのが難しい場合もある。生物多様性の場合、政府の統計があるわけでもないし、行政の効率性を考えるとむやみに指標を増やすのがいいわけでもないし難しいと思います。
部会長代理	資料3の一番右側の列に増減状況と目標があり、上を向いている矢印が結構多くなっており、若干達成しにくいようなものが入っていると思われるが、これから10年は非常に激変が予想されていて、人口減少や高齢化など大きな変化が生じることに對して、目標のところが達成されればかなり解決されるという感じを与える工夫があった方がいいのかなと思います。 そういう意味では、現状の延長上の指標設定になっていて、SDGsで問題にしているような将来に向けたターゲットに對してチャレンジ的な指標設定が可能なものが少し入ってもいいのかなと思います。
事務局	計画本文の分析に基づき作り込んでありますので、このような指標設定になります。御指摘のとおり、逆側の視点から見てこれらの指標がどうなのかもう一度チェックしたいと思います。
部会長代理	基盤としてそういうものがあって良くて、リスクマネジメントとしてこれとこれは重要だというターゲットだけでもいいので、そういう観点が入ってきた方が良くもしいかな。
事務局	今は指標が均一に並んでいますので、指標のメリハリをつけることも検討したいと思います。
大江委員	SDGsみたいな非連続のような変化というのは、大事なだけれどデータとして捉えきれない部分があって、なかなかここでは出てこないと思いますが、できるだけ考えていただいた方がいいかもしれない。ただやはりデータとして捉えきれない部分もあることはある。
部会長代理	統合性の問題も、どうしても個別法で行っていますから、なかなか難しいと思いますが、ただ全部という話でなくて、象徴的、重要なところだけでもにおいがした方が良くと思います。
大江委員	土地利用は連続的に変化していくものなので、量的な指標が大多数を占めるのは、土地利用計画の観点からいうと当たり前のことであり、例えば、農業の部分では、女性の進出の問題とかがありますが、SDGsに近いような話になってきて大事なことはありますが、あくまで土地利用でありますから、基本的には担い手というような連続的な指標を前提にしていくことだと思います。

	それと質的な部分をどう付け加えられるかということだと思います。
大江委員	増加傾向を5%以上10%未満とすると定義しており、かなり増加傾向の幅が広いと思いますが、何か基準があるのでしょうか。
事務局	何を尺度に評価していくのか、なかなか事例のない中、難しいところがあったのですが、国が第5次全国計画のモニタリング制度を作ったときに、このような評価区分をしていたため、参考にしました。
大江委員	「皆増」という意味は何でしょうか。
事務局	第4次計画の基準年のときにデータが取れていない、もしくは存在しないことに対して、今回の第5次計画の基準年にデータが取れて、増加となっている場合、皆増加したということで、一般的な表現ではないかもしれませんが、行政的にこのような表現を使っているところがあります。
大江委員	34番の「都市農地の保全」の指標で、都市農地は農業者が都市地域で農業を行っていくということで、生産緑地はその代表的なものと思いますが、都市農業の振興法もできましたから、いわゆるコークリエイションという農業者と都市住民が一緒に保全していく市民農園みたいな活動も出てきている。市民農園の指標は66番で「農地・森林の保全への関心・理解の醸成」にあります。こことも関わってくると思われまので、先ほどの重複の話とも絡み、市民農園の指標を「都市農地の保全」に入れてもいいのかなと思います。
事務局	確かに都市農地の位置づけが変わって、生産緑地法も改正され、生産緑地の中で農家カフェや直売所などいろいろな用途で利用もできるようになったということで、「都市農地の保全」の中に市民農園も出てくると思われまので、重複という形で市民農園の指標を入れることを検討したいと考えております。
中村委員	「立地適正化計画作成市町村数」は今現在7市町で作成されているかと思いますが、これを今後増やしていくということで目標を増加にしているのか、2015年は0であるので、今現在作成されている7市町の数値をもって目標を増加としているのでしょうか。
事務局	2015年当時は0だったのですが、今現在は7市町で作成されていて、今後も作成していく意向を持っている市町村もありますので、また国の方でもコンパクトシティの取組として促進しておりますので、今後増加する目標としております。
中村委員	「下水道普及率」を入れた方がよかったのではないかと思います。

	<p>が、まだ省くほど普及していないと思われそうですがどうでしょうか。</p> <p>今回、「利便性と生産性の高い都市構造の形成」か「インフラの維持管理の効率化」のどちらかに入れた方が良いかと思われま</p> <p>身近な指標として普及させていくべきものと思います。</p>
事務局	<p>今回の第5次計画は第4次計画から全面改訂して策定しているため、下水道の普及といった記述がないと指標から落としてしまっている</p> <p>ので、対応した記述がないとどこに指標として入れていくべきか難しいところはあります。</p>
事務局	<p>違和感を持たれる指標があれば、もう一度、事務局の方で逆側からの視点で基本的な指標について再点検したいと思います。</p>
部会長代理	<p>資料3の大項目（基本方針）別にみていきたいと思います。</p> <p>まず、1の「人口減少・高齢化局面におけるスマートで持続可能な県土利用」について、お気付きの点等がありますでしょうか。</p>
部会長代理	<p>「林業の生産性向上」で「森林経営計画の認定面積」と「林道延長」の指標としているが、「農山村地域の持続可能性の確保と活性化」との対応関係からすると、もう少し幅を広げた方がいいのではないかと思います。</p> <p>それと、「県内外との交流・連携機能の強化」で、道路関係が決定的に重要だということはわかりますが、交流・連携機能は道路だけか検討してもいいのではないかと思います。</p>
中村委員	<p>空き家戸数、空き家率の目標を減少傾向としていますが、空き家はどんどん増えていきますし、人口減少・高齢化の中で減少という高い目標を掲げてしまうのはどうかと思います。横ばいで行けたらよろしいのではないかと思います。</p>
部会長代理	<p>次に、2の「県民の営みとともに在る自然環境・景観の保全・再生」についてはどうでしょうか。</p>
部会長代理	<p>「自然環境及び生物多様性の保全・再生」について、先ほど申した生物多様性のことと、森林関係では27番から30番にいろいろ入っていますが、「里地・里山の保全」のところの場合によっては移すなり、あるいは重複させてもいいのかなと思います。</p> <p>それから、「再生可能エネルギーの活用」というところで、再生可能エネルギーは太陽光を含めいろいろなものがあるので、本文中にも記載があるようにバランスが必要だということもあり、太陽光だけでない方が良く思われます。</p>
部会長代理	<p>「県民の営みとともに在る」というキャッチコピーに対して、指標の</p>

	<p>中で、そのメッセージが弱い気がしており、それはそれぞれの基本方針で言えることで、1の「人口減少・高齢化」に対して、個別の対策としてはこういうことなのでしょうけれども、何かそれを統合したような全体のインパクトとしてどうなのか、3の「災害リスク」に対して、県民にとって土地利用との絡みで一番重要なことは何であるか、それに対する重み付けがあった方が良くと思います。</p>
中村委員	<p>2. 2「資源循環型」で「産業廃棄物」の利用だけなのかなという気もしますし、「産業廃棄物」も「産業廃棄物不法投棄の発生量」だけで、これでは適正処理の件数は含まれていないので、もう少し違う指標はないかと思います。</p>
部会長代理	<p>農業は農業なりに、森林は森林なりの資源循環があって、それが全体として「県土の恵みに応える資源循環型の県土利用」にどう結び付くかという観点があるといいなという感じがします。</p>
事務局	<p>先ほど部会長代理から、「県民の営みとともに在る…」とか、あるいは「人口減少・高齢化局面…」とかこの大括りのところの御指摘がありましたが、今お示ししているモニタリング指標というのは土地利用に係る質的なところをどうするのかの観点だけで挙げています。そもそも人口減少や高齢化がどういう状況に変化してきているのかなど土地利用には繋がらないかもしれないが影響を及ぼすであろう指標、既存の計画で使っているような指標もあってもいいのかなと思います。</p>
部会長代理	<p>そうすると、県土利用の基本方針のところの大指標と対策・取組のところの個別指標という構成になると思いますが、それはいろいろな要件があるから、必ずしもそれだけでは達成できるものではないかもしれません。</p>
中村委員	<p>単純な人口、世帯数というものについても今回の指標から省かれていますよね。</p>
部会長代理	<p>これは地域別（5ゾーン）に出てこないといけませんよね。</p>
事務局	<p>例えば人口減少という数字をここに入れ込むとすると、土地利用の観点からの目標としては、若干齟齬があると思います。前提条件として、バックデータとしての数字を提示しておくという方法はあるのかなと思います。</p>
事務局	<p>社会情勢の変化はこうなっています、それとはリンクしないかもしれませんが個々の指標からこういった取組が進んでいますというように、両側面から指標を見せるのはあると思います。</p>

中村委員	<p>社会的な指標とモニタリングにおける指標も何らかの関係性があると思われていると思いますので、バックボーンがあった方がわかりやすいと思います。</p>
部会長代理	<p>根本的な話になるかもしれませんが、「県土利用の基本方針」と「計画実現に向けた措置」と「取組」と「モニタリング指標」との関係性について、森林の管理の持続性等の場合には、基準と指標という言い方をしている、持続可能な森林管理というのがターゲットだとすれば、それを実現するための基準が生物多様性の保全であるとか8つくらいの基準が国際的にあって、その基準を評価するための計測可能で基準の構成要素になっているものを指標というように評しています。</p> <p>基準と指標の関係性は国際的にはそのように押さえられていたと思っております、そうしたときに、今回は、「県土利用の基本方針」がターゲットで、「計画実現に向けた措置」と「取組」が基準のようなものであり、そして「モニタリング指標」という設定なのですが、はっきりした定義とか、関係性とかは、そういうのに比べると緩くなっているのかもしれない。</p>
部会長代理	<p>次に、3の「災害リスクを考慮した安全・安心な県土の構築」についてはどうでしょうか。</p>
中村委員	<p>防災はこれから一番重要な指標ではないのかと思うのですが、各市町村で作られている液状化のしやすさとか災害を想定したマップなどを指標化するととなると難しいと感じています。</p>
部会長代理	<p>3. 3の「自然生態系の有する防災・減災機能の活用」では、「森林」と「海岸保安林」の指標が入っており、これについては森林課の取組が進んでいるものとして入っているかと思われませんが、「自然生態系の有する」ということだと、もう少し広く全体的に土地利用として、農地なり、都市を含めた指標が入っていた方がバランス的に良いかと思えます。</p>
中村委員	<p>61番の「海岸保安林」は津波対策のための指標という認識でよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>その通りです。</p>
中村委員	<p>ハード面だけでなく、ソフト面の取組も大事だと思うのですが、例えば防災ネットワークだとか指標化されているものはないのかと思います。事が起きた時にハード面も大切ですが、一番真っ先に機能しなくてはいけないのはソフト面だと思いますので、そういう指標も入れた方がいいと思います。</p>



部会長代理	<p>指標はパフォーマンス指標とシステム指標という分け方をしますが、パフォーマンス指標というのは何パーセントにするとか、まさにパフォーマンスを問題にするものであり、システム指標というのは、例えばISOみたいな環境マネジメントシステムの中で、管理や経営、行政等の仕組ができていくかどうかというものになります。</p> <p>ただ、ここにシステム指標というのは難しいかもしれませんが、資料1のPDCAサイクルの中で、目標が達成されていないとすれば、どういところでシステム上の問題があるかがチェックされて、ダブルループでサイクルが進んでいくことが一番上手く機能していくと思います。</p> <p>ですから、その辺は簡単ではないですが、全部入りでなくとも一部でも別途検討していただければと思います。</p>
部会長代理	<p>次に、4の「多様な主体の交流・連携・協働による県土の支え合い」についてはどうでしょうか。</p>
部会長代理	<p>いろいろなところで幅広く言われているものに対して、取組や指標のところで内容として狭くなっていると思います。</p>
部会長代理	<p>多様な主体といったときに、それを支えるアクターがもう少し見えた方が良く、この4番の基本方針は全体に係るものだと思いますので、教育、研究、医療等のいろいろな分野の産業界、行政、市民団体、男女、ジェンダーの問題等いろいろなものを含んだ連携みたいな構えがあった方がいいかなと思います。</p>
部会長代理	<p>全体を通していかがでしょうか。</p>
部会長代理	<p>1番の基本方針で「スマート」という言葉が審議会でも議論があって、これは残したいということで入ったのですが、こだわった「スマート」がもう少し指標に出た方がいいと思います。</p>
事務局	<p>この指標案をまとめるに当たりましては、関係課にも見てもらいましてまとめてきているところですが、どうしても計画からスタートしているとか、専門の分野に詳しいだけにデータを取りやすい、把握しやすい指標に寄せられていってしまっています。委員の皆様からいただいた御意見を参考に、どこまでできるかわかりませんが、もう一度視点を変えて違う目線で点検したいと思います。</p>
部会長代理	<p>他にはよろしいでしょうか。</p> <p>特にないようでしたら、今回池邊部会長と岡委員が欠席されていますので、後日事務局において意見聴取をしていただき、その意見と今日の意見を踏まえまして修正案の作成をお願いしたいと思います。</p>

部会長代理	最後に、「その他」となりますが、部会員の皆様から何かございますでしょうか。
部会長代理	よろしいでしょうか。 事務局から何かございますでしょうか。
事務局	特にございません。
部会長代理	それでは、以上をもちまして議事を終了させていただきます。 御協力ありがとうございました。進行を事務局にお返ししたいと思います。
司会	長時間にわたり御審議いただきありがとうございました。 それでは、以上をもちまして、千葉県国土利用計画地方審議会第7回国土利用計画調査検討部会を閉会いたします。